

実社会や日常生活との関わりを見いだせる課題設定の工夫

スケーリングやアンケートの結果を生かした課題設定

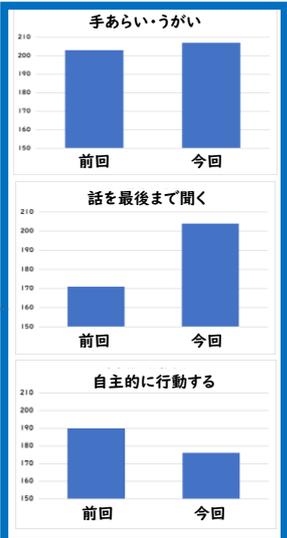
児童とともに立てた学級目標について、その達成に向けて話し合ったり、振り返ったりする際の工夫を紹介します。学級活動（3）において、児童に学級目標の達成度をスケーリング（数値化）させた結果やアンケートの結果を提示することで、児童自身が自分たちの課題を考えられるようにしました。

学級目標について、みなさんがスケーリングした数を合計した結果です。



ポイント！

スケーリングやアンケート結果の提示



前回	今回
190	200

前回	今回
170	200

前回	今回
190	170

「手洗い・うがい」と「話を最後まで聞く」が上がってるよ！

前回よりも「自主的に行動する」は下がっているな。

「自主的に行動する」をもっと伸ばしたいな！

これは「自主的に行動する」について、もっとできるとよいことを聞いたアンケートの結果です。



「言葉」に関係しているのは「ふわふわ言葉」だけですか？

ふわふわ言葉をつかう	8
友達が悪いことをしていたら注する	7
べんきょうに集中する	7
むごんでそうじをする	6
こまっている人がいたら手伝う	4
あいさつを自分からする	4
楽しくいろいろする（友達となかよく遊ぶ）	3
友達がけんかをしたら止めてあげる	3
早くじゅんぴをする	2
進んで給食をくばる	2
次の時間のじゅんぴをする	1
友達が発表したらはく手する	1

「ふわふわ言葉」が一番多いな。

注意する時も言葉で言うよね。

手伝う時も相手に声をかけるよね！

分かった！目標を達成するために、友達に対する「よい言葉かけ」がもっとできるようになるといいんだね！



学級目標達成に向けた課題を焦点化し、全体での共有へ

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善のポイント

スケーリングやアンケートの結果を示すことは、児童が学級目標を自分事としてとらえることに有効です。そして、提示したスケーリングやアンケートの結果を生かすことで、学級目標達成に向けた自分たちの課題を児童自身に気付かせていくことが大切です。